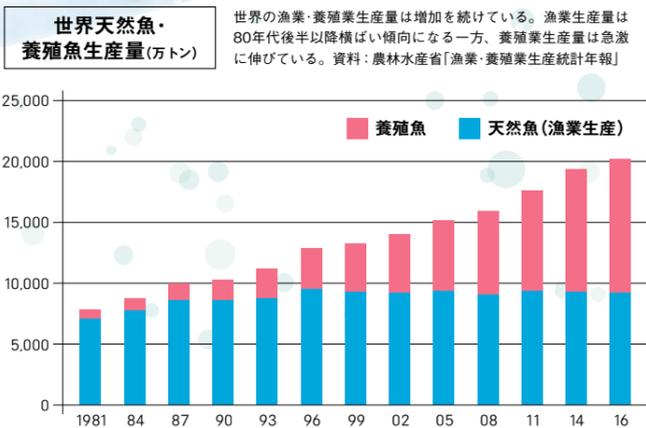


世界的に増えている生産量  
それに対して日本は：

編集部(以下)魚は、私たちの食生活になく  
てはならないもの。魚が獲れる量って昔と今  
では違いますか？

平野社長 世界的に見ると、1981年には天  
然魚7022万トン、養殖魚782万トンで、  
計7804万トン。2016年には天然魚が  
9203万トン、養殖魚が1億1021万ト  
ンで、計2億24万トン(左参照)。この35年  
間に世界の人口は1.7倍に増加、タンパク質  
の摂り方も植物性から動物性へと変容し魚食  
の需要が増えています。養殖魚の増加がこ  
れを補っています。

日本は海に囲まれているし、昔からお魚



世界の漁業・養殖業生産量は増加を続けている。漁業生産量は80年代後半以降横ばい傾向になる一方、養殖業生産量は急激に伸びている。資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

魚の年間消費量も減少  
いい魚が日本に集まらない!?

編 そんな経緯で日本の漁師さんが獲る魚が  
減ってしまったんですね。となると、日本  
人の魚の消費量も減っているのでしょうか？

平野社長 世界的に魚の消費量が増える中、日  
本人が1年間に消費する魚の量は、90年代に  
は一人あたり70kgだったのが、2013年に  
は50kgに減っています。かつて日本は世界主  
要国のなかで最も魚を食べていましたが、今  
は韓国や、養殖が盛んなノルウェーの方が上  
です。これは、日本人の食生活の変化はもちろ  
日本に輸入される魚が減少していることも影  
響しているでしょう。量ですが、おいしい、  
質のいい魚が日本から減っている気がします  
ね。いい魚は中国の都市部など購買力のある  
地域に集まっていますから。

編 そうなんです。でも、世界的には漁業  
生産量は増えているわけだから、これからは  
輸入の魚に頼った方がいいのでしょうか？

平野社長 日本の食卓に、魚というおいしく  
ヘルシーな動物性タンパク質を届けるため  
は、まずは国産の水産物を大切にすること。  
加えて、輸入水産物を確保することも重要とい  
えます。特に世界の養殖魚の生産量はここ35  
年で1000万トン足らずから1億1000万  
トンへと、10倍以上に増えて天然魚の生産量  
を上回りました。ただ、養殖にも限界はあり  
ます。かつてインドネシアで大規模なエビの養  
殖場があり、人工衛星からでないと思われな  
いほどの規模だったのですが、エビの病気が蔓  
延し養殖できなくなったという例があります。

# 少し真面目に、 魚のミライの 話をしよう。

お話を伺ったのは

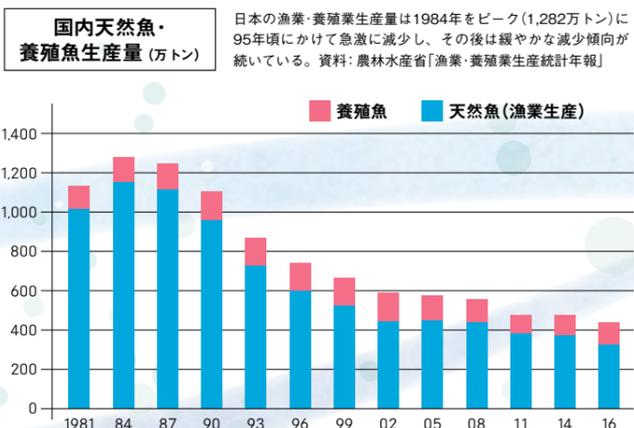
平野敏樹さん

マルイチ産商  
代表取締役社長



ひらの・とき ●1959年、山梨県甲府市出身。三菱商事  
で水産ユニットマネージャー、海外ではジャカルタ、ロ  
ンドン、バンコクに駐在し、主にマグロ等の水産部門を担当。  
2013年にマルイチ産商副社長、18年に社長に就任。

私たち日本人は、魚をたくさん食べている印象があるけれど、  
実のところはどうなのでしょう？ 漁業生産と消費をつなぐ役割を果たす  
長野県最大手の水産卸会社「マルイチ産商」の平野社長に、  
日本の魚事情についてお話を伺いました。



日本の漁業・養殖業生産量は1984年をピーク(1,282万トン)に95年頃にかけて急激に減少し、その後は緩やかな減少傾向が続いている。資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

平野社長 日本も同じく増えているんですか？  
平野社長 日本の漁業生産はグラフ(左参照)の  
ように、1981年の1132万トンに対し、  
2016年には436万トンと、半分以上に減つ  
ています。世界で日本が占める割合だと、81年  
には15%だったのが、16年はわずか2%です。  
編 えっ。日本で獲れる魚がたった2%なんて、  
意外です。どうしてそんなに少なくなつてし  
まったんですか？  
平野社長 かつて日本の沖合で大量に獲れたマ  
イワシが減少したこと、200海里問題といつ  
て各国が領海を主張しはじめる中で、原油の  
高騰などによって漁労採算が悪化し日本船が  
遠洋漁業から撤退したことが大きな要因であ  
ると思います。原油価格は漁船を出すコストの  
非常に重要な部分です。

自然の摂理を超えてしまうようなことは、や  
はり難しいのかもしれない。

編 日本の養殖魚についてはどうですか？

平野社長 プリは10万トン、本マグロは1万  
5000トン養殖されています。そのほか銀  
鮭や鯛、帆立貝などの養殖も盛んです。ただ、  
世界では養殖魚の生産量が大幅に増えている  
のに対して、日本は35年前とほぼ変わって  
いません。

編 天然魚の生産量が減ってしまったので、天  
然魚3:養殖魚1という割合なんです。そん  
な漁業生産者と私たち消費者をつなぐ「マルイ  
チ産商」さん、今後はどんな取り組みを考え  
ていますか？

平野社長 天然魚・養殖業ともに、まず日本の  
漁業生産を大切に、再生産、拡大できる  
ように努めていきたいです。私たちは全国の  
生産者とやり取りして魚をダイレクトに仕入  
れています。この秋も、プリの養殖で有名な鹿  
児島の東町漁業協同組合(以下JF東町)と  
地域漁業活性化包括業務連携協定を締結しま  
した。輸送費や積載効率など、中間流通にま  
つわるコストを最適化し、皆さんにJF東町の  
おいしいプリをお届けしたいと思っています。ま  
た、新しくできた豊洲市場では仲卸もやって  
います。全国から魚が集まる大市場である豊  
洲市場を活用し、水産物の中間流通の効率化  
を図っていきます。さらに、ノルウェーやチ  
リのサーモン、ベトナムのパンガシウスとい  
つたおいしい養殖魚も積極的に取り入れてい  
きたい。消費者のみなさんに、多少高くても食  
べたいと思ってもらえる商品や食べ方を提供  
し、たくさん魚を食べていただきたいです。



「マルイチ産商」では全国の漁協から直接魚を仕入れるほか、豊洲では「丸一北海屋」という子会社が仲卸を行っている

全国で獲れた魚が長野へ!



少し真面目に、魚のミライの話をしよう。